

経営比較分析表（令和4年度決算）

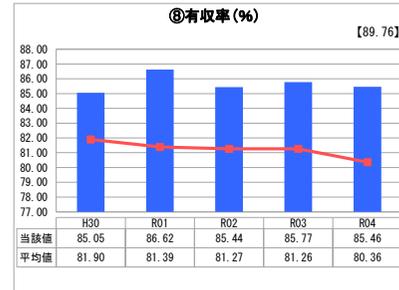
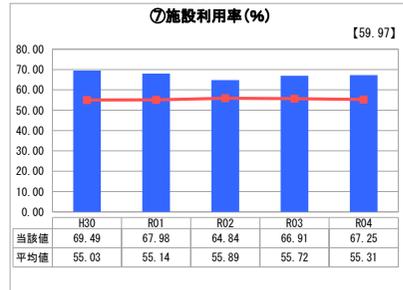
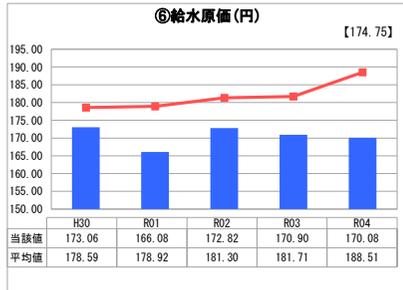
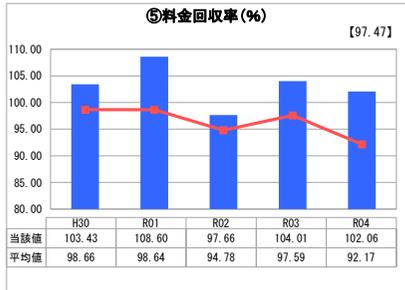
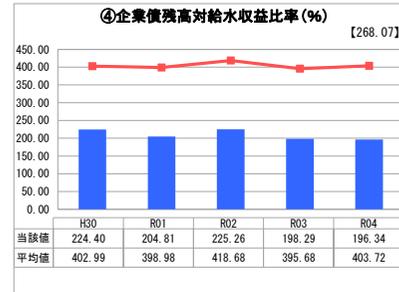
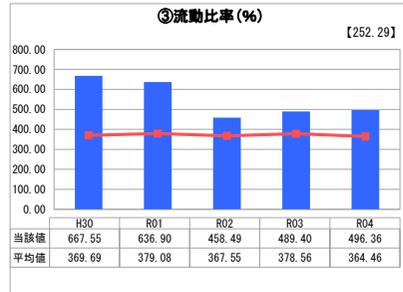
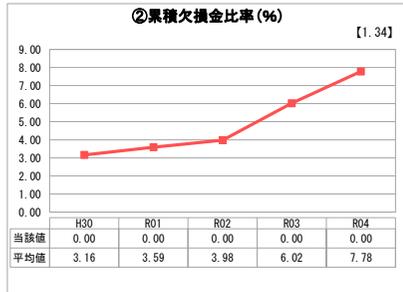
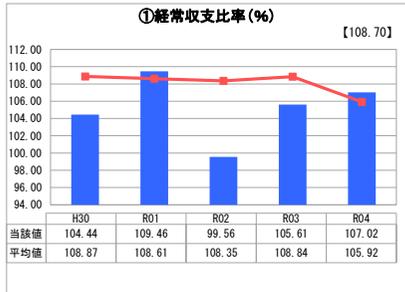
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	78.89	99.79	2,365	

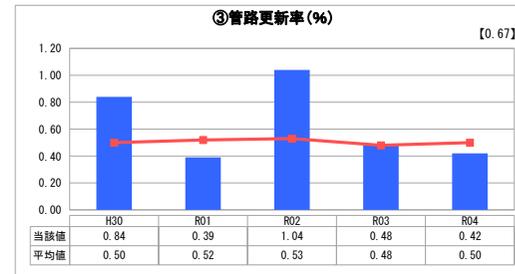
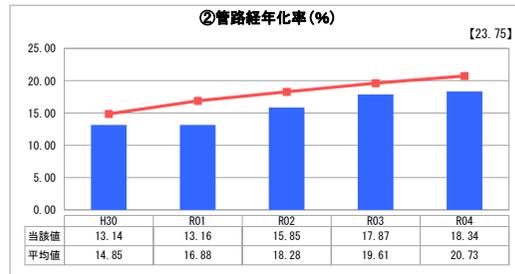
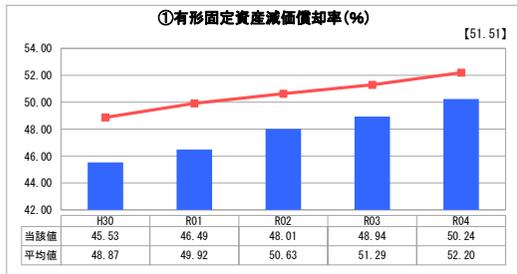
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,117	38.64	468.87
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,985	38.64	465.45

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
 経常収支比率は100%を上回り黒字となり、また類似団体平均を上回ることができた。社会経済活動の再開、活性化などにより昨年度より1.41ポイント増加となった。

② 累積欠損比率
 累積欠損金は生じていない。

③ 流動比率
 100%を大きく上回っていることから、短期的な債務に対する支払能力はあるが、建設改良費等の増加により、現金等の流動資産が減少しているため下降傾向にある。

④ 企業債残高対給水収益比率
 企業債残高の減少により、数値が減少している。今後は施設更新に伴う借入により数値が上昇する見込みであり、状況を注視していく。

⑤ 料金回収率
 昨年に比べ給水収益の減、及び長期前受金戻入の減により、昨年より料金回収率は下がったが、100%を上回っている。

⑥ 給水原価
 昨年度より有収水量が増加したため、給水原価は減となった。類似団体平均を下回っており安価な原価で供給している。今後は人口減少とともに有収水量の減少が見込まれるためコスト削減に努める。

⑦ 施設利用率
 使用水量の増加により、1日平均配水量が増加したため、昨年度に比べ施設利用率は増加している。今後は人口減少等により数値が低下していくと考えられるため、ダウンサイジング等を検討していく。

⑧ 有収率
 類似団体を上回っているもの、漏水等の無効水量をさらに減少させ有収率をさらに上昇させることが重要と考える。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
 類似団体平均を下回っているが、緩やかに上昇している。今後は経年による施設全体の老朽化が進み、上昇する見込みである。

② 管路経年化率③管路更新率
 管路経年化率は前年度より上昇しており、老朽化が進んでいる一方、管路更新率は前年度より低下し、0.42%に留まっている。これは、前年度に比べ口径の大きい管路の布設替工事を実施したため、更新延長が少なくなったことによるものである。施設更新については、吉見町水道事業ビジョン及び基本計画に基づき計画的に実施している。今後も引き続き、計確認に基づき継続的な施設更新を進めていく。

全体総括

本年度は給水収益が増加し、経常収支比率が100%を上回った。しかし、建設改良工事等の増加により、資金残高は減少傾向にあるため、経営の健全性・効率性としては良好とは言えない。今後は大口使用量の動向を注視するとともに、引き続き企業債の借入を実施し、適切な施設の維持管理、施設規模の見直し等を検討していく。また、来年度も有収率の改善に向けて、アセットマネジメント計画に基づき老朽管の更新及耐震化の促進に努めるほか、漏水調査を引き続き実施していく。

今後は、本町の水道事業ビジョンに掲げる基本理念である「より安全・安心で、しあわせを守る みんなの水道水」を目標に、安全な水道と安定供給の確保のため、より一層の経営基盤の強化を図っていく。